

2025年8月16日

声明 光州市の日帝強制動員市民歴史館の建設決定によせて

強制動員真相究明ネットワーク

2025年8月、韓国・全羅南道の光州市は、太平洋戦争犠牲者光州遺族会・故李金珠会長の強制動員関係資料をユネスコ世界遺産に登録することをめざし、光州市の鐘紡紡績工場跡地に日帝強制動員市民歴史館を2029年までに建設するとしました。私たちはこの決定を歓迎します。

太平洋戦争犠牲者光州遺族会は強制動員問題の解決を求め、1990年代に1200人を超える原告を集めて日本政府に謝罪と賠償を求める「光州千人訴訟」を起こしました。光州遺族会は強制動員被害者の会員を広げ、証言を集め、裁判や活動の記録を残しました。問題解決に向けて日韓市民の連帯をすすめました。それらの資料は強制動員問題解決に向けての貴重な資料です。

李金珠氏は亡くなりましたが、その思いは埋められることなく、継承されています。光州遺族会の活動は日帝強制動員市民の会の結成につながり、光州遺族会の資料は現在、市民の会の事務所に保管されています。その資料は日本による強制動員の実態を示すものであり、広く市民に紹介され、真相の究明、動員被害者の尊厳回復と記憶の継承に利用されるべきものです。市民の会は、2018年の強制動員大法院判決以後、その判決の実現を目指す市民活動を担ってきました。新たに強制動員訴訟もすすめています。

これらの活動を示す資料を整理・展示して市民の財産とする作業は、植民地支配に抵抗し、被害者の尊厳の回復を目指すためのものです。日帝強制動員市民歴史館の建設はその活動を市民社会が共有することです。歴史館は強制動員問題の真相の究明、被害者の尊厳回復、記憶の継承の場となるでしょう。それは、植民地主義を克服し、人権と平和を実現し、それを基礎とした国際連帯の実現につながるものです。

いま世界では植民地主義と人種差別、権威主義を克服できず、戦争が拡大されています。そのようななか、光州での歴史館建設と植民地主義の克服をめざす活動は人権・平和・正義に向かう光となるでしょう。

私たちは日帝強制動員市民歴史館の建設決定を祝します。また太平洋戦争犠牲者光州遺族会資料の保存と公開により強制動員問題の解決がすすむことを願います。さらに光州遺族会資料の精選によってユネスコの世界遺産として認定され、歴史正義の象徴となることを望みます。そして私たちは、強制動員問題解決に向けて一層努力し、日韓市民の共同行動をすすめることを誓います。

連絡先 兵庫県神戸市灘区八幡町4-9-22（公財）神戸学生青年センター気付

強制動員真相究明ネットワーク

TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019 E-mail shinsoukyumei@gmail.com